



子どもを大学に行かせるお金の話
久米忠史・著 主婦の友社
奨学金アドバイザーの著者が、学費や進学にかかる費用、奨学金の種類、返済方法などについて説明します。返済遅延による延滞金も発生する奨学金。まずは、進学意思・返済責任について子どもと話し合うことが大切です。

化石を展示します

中央公民館で恐竜に会おう！

中央公民館では、林原自然科学博物館の協力により、恐竜の化石や骨格模型の展示などを行います。

この機会に、恐竜やその化石について理解を深めてみませんか。お誘いあわせの上、ぜひお越しください。

※この催しも、場所は中央公民館です。

【化石・骨格模型の展示】

▽期間 8月24日(金)～9月30日(日)

※休館日は毎週月曜日と祝日です。

▽開館時間 午前9時～午後9時30分

▽入場料 無料

【恐竜の骨に大接近(展示解説)】

恐竜の化石や骨格模型を間近に見ながら、講師の解説を聞きます。

▽日時 8月26日(日)

午前11時～、午後1時～、午後3時～(各回約30分)

▽講師 石垣忍氏(林原自然科学博物館館長)

▽参加費 無料



子どもたちにも分かりやすく説明

※9月1日(土)、2日(日)

の午前11時～正午、午後2～4時にも林原自然科学博物館職員が、会場で展示についての質問にお答えします。

【体験型講座】

▽日時 9月1日(土)、2日(日)

午前10時～、午後1時～(各回約40分)

▽対象 小学校低学年
▽内容 恐竜の化石や骨格模型の観察など

▽参加費 無料

▽講師 林原自然科学博物館職員

▽参加費 無料

▽定員 各回20人

※8月1日(水)から受付開始。先着順・定員に達し次第締切。

【講演会】

▽演題

①恐竜はこうしてほる(親子向け)

②モンゴル恐竜調査(こんなことがわかってきた(一般向け))

▽講師 石垣忍氏(林原自然科学博物館館長)

▽日時 9月30日(日)

①午前10～11時

②午後1時30分～午後2時30分

▽参加費 無料
▽定員 各回70人
■問い合わせ・申込先

中央公民館



おうさまのおひっこし
牡丹靖佳…作 福音館書店

恥ずかしがり屋のおうさまと、あわてんぼうのおともたち。おうさまは、照れくさくてうまく命令できません。おともたちは勘違いして、いつもへんてこな形で命令を叶えます。ある日、おひっこしをすることになったおうさま。一体どうなるのでしょうか。

今月の月末図書整理日(お休み)は、**8月31日(金)**です。

■貸出し・問い合わせ先
瀬戸内市立図書館 ☎0869-22-3761
長船町公民館図書室 ☎0869-26-2501
牛窓町公民館図書室 ☎0869-34-5663
HP <http://lib.city.setouchi.jp/index.htm>

瀬戸内発見伝

巻の九十一

歴史に見る 瀬戸内市の災害

本紙特集「災害に備える」では、日頃からできる備えについて説明しました。

防災・減災を考える上では、過去の災害について学び、後世に伝えることも重要です。邑久・長船地域の平野部では、吉井川や千田川、千町川の氾濫などにより頻繁に洪水が、牛窓・邑久地域の沿岸部では、高潮の被害が起こっています。

記録に残る大水害

16世紀以降に起こった災害について、多くの記録が残さ



昭和20年の浸水被害について、体験者の話を聞き、浸水の跡を確認する参加者(平成23年8月21日、チャレンジ防災IN今城)

れています。

暴風雨や干ばつ、地震などもありますが、多いのは水害の記録です。

中でも、戦国時代の大永年間(1520年代)・天正年間(1570年代)に起きた長船天王原の洪水は、長船鍛冶衰退の一因になったと言われています。

また、承応3(1654)年7月の洪水では、岡山藩の広い範囲で被害が出ました。千町平野では20日間も水が引かず、岡山藩から食料の配給があったものの、多くの餓死者も出たとあります。

昭和20年の洪水

昭和20(1945)年9月には、枕崎台風によって行幸村八日市(現在の長船町八日市)の吉井川堤防が切れ、行幸、国府、美和、本庄、邑久、笠加、福田、今城、豊原、豊太伯の各村の平野部が泥沼と化す大水害が起こりました。下流の豊村新(岡山市東区西大寺新)でも、堤防が決壊したことにより海水が逆流して氾濫水の排水が妨げられたため、浸水が1週間に及んだ地域もありました。



千町平野における昭和20年9月の洪水状況(聞き取り調査により作成)『邑久町史通史編』より
※水系・JR赤穂線、瀬戸内市役所の位置は現在のものです。

が止まりました。午後2時ごろになると濁流の動きも落ち着きはじめ、ゆったりと西から東へ流れていきましたが、壊れた物置小屋などのかなり大きな物も流されました。

江川氏は「戦後の混乱期、物資の不足に追い打ちをかけたこの洪水は、農民の心を完全に打ち砕き、再起不能の痛手を与える程の天災であった」と記しています。

しかし、赤枝小太治氏(邑久町山田庄)の「農事日記」(『邑久町史通史編(下)』)には、洪水後に「泥土ヲ搬出ス」「○○ヲ洗ヒ乾燥ス」「○○ヲ清掃ス」の記述が続ぎ、復旧の進む様子がうかがえます。人々は、洪水の後始末から始まった戦後の復興をたくましく進めていったのです。

【参考文献】
『改訂邑久郡史(下)』
『邑久町史通史編(下)』